

東北大学附属図書館報

木這子

BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

—木這子（きぼこ）とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子（こけしぼうこ）—

目 次

・キャンパス情報ネットワークシステム （学内LAN）と図書館システムの位置づけ…… 1	・昭和62年度下半期文献複写実績…… 8
・課の名称変更と今後の図書館サービス…… 5	・昭和62年度図書受入冊数調…… 9
・昭和63年度学術情報センター目録システム 地域講習会…… 6	・記念資料室利用規則の制定について…… 10
・第35回国立大学図書館協議会総会	・会議等…… 12
・第59回日本医学図書館協会総会…… 7	・人事異動
	・編集後記

キャンパス情報ネットワークシステム（学内 LAN） と図書館システムの位置づけ

附属図書館調査研究室研究員 石 垣 久 四 郎

東北大学では、昭和58年5月から、情報科学委員会及び同第一専門委員会の下に各種検討小委員会を設置し、近年急速な勢いで進歩・普及している情報処理技術と通信技術とが高度に融合化する高度情報化社会が数年後の早い時期に到来するという認識のもとに本学における学術の研究・教育にかかわる情報処理、伝達などがこのような社会環境の中で高次的・効率的に行なうための「本学の情報処理環境の基盤整備」について、具体的な分析・検討を開始した。各種委員会は、全学構成員の支持と指摘・助言を得つつ精力的な分析と検討を重ねた結果、東北大学は開学以来から研究第一主義というモットーで多くの学問分野で世界的レベルの先駆的研究成果と研究者を育ててきた伝統を今後においても推持し、さらに飛躍的に発展させてゆくためには、新たに開かれた学術向き、多目的総合情報ネットワークシステムの構築が必須であるとの結論に達し、その基本構想をまとめた。

この東北大学総合情報ネットワークシステム（TAINS：Tohoku University Academic/All-round/Advanced Information Network System）は、本学の構成員が学術の研究・教育及び大学事務など全ての情報処理に関し学内外の人々や設備との間で情報を交換し処理することを援助し、それによって大学の本来の目標を高度に達成させるための付加価値高速デジタル通信網（VAN）である。すなわち、全学（全キャンパス）を光ファイバーで結び、情報処理・情報伝達にかかわるコンピュータ、ワークステーション、端末などのあらゆる情報処理機器を高速大容量デジタル網で結合し、ハードウェア、ソフトウェア、データなどの各種資源の共有化を目指したものである。その目的とするところは、単に計算処理のみならず各種データベース、画像、計測データ、日本語文書などの処理と伝達を可能にし、研究教育及び大学事務を対象とする開かれた学術向き総合システムである。このようなキャンパス情報ネットワークシステムの実施計画が本学全構成員の支持と協力及び文部省担当当局の深い御理解と御支援のもとに昭和62、63年度予算でその構築の設備・設置工事が行なわれており、約2/3の完工地区ではすでに運用を開始し、利用されているが昭和64年4月1日からは全面的な運用が開始されることになっている。数ヶ月後には本学の全構成員は、時間と場所とを問わず必要な時に、高度で多機能な学術情報処理システムを利用できるようになるのである。

また、TAINSのデータ通信網の構成は、広い地区に分散されている各キャンパス間とキャンパス内の各部局の研究棟間とを高速大容量の光ファイバーで結び、100Mビット/秒の伝送速度で、アクセス制御はANSI標準FDDI準拠のトークン・パッシング方式を採用し、基幹ネットワーク層と定義している（リング型あるいはループ型ネットワーク）。そして、各キャンパス内の全部局研究棟内には同軸ケーブルを張り巡らし10Mビット/秒の伝送速度で、アクセス制御をISO 8802/3準拠のCSMA/CD（Carrier Sense Multiple Access with Collision Detection：衝突検出付きキャリア検知多重アクセス）を採用し、インハウスネットワークと定義されている（イーサ型・バス型ネットワーク）。このようにTAINSはキャンパス間・建物間と建物内との2階層に分割して構成されておりデータ通信方式は文字、計測データ、画像データなどをデジタルデータ変換後データ通信が行なわれるものと想定して、デジタルデータ通信に最適なパケット交換方式を採用している。さらに、TAINSの画期的な大きな特徴は、誰でも、どこからでも、いつでも、どのコンピュータを使っても利用することができるという基本的理念のもとにその基本となるネットワークアーキテクチャを各メーカーのコンピュータが相互に接続することができるというOSI（Open Systems Interconnection：異機種計算機間通信のための国際標準規格）を採用した我が国及び世界で初めての本格的大学内ネットワークシステムである。そして国内外の関係者から注目されているものである。（詳細についてはTAINS関係の各種報告書などをご参照）

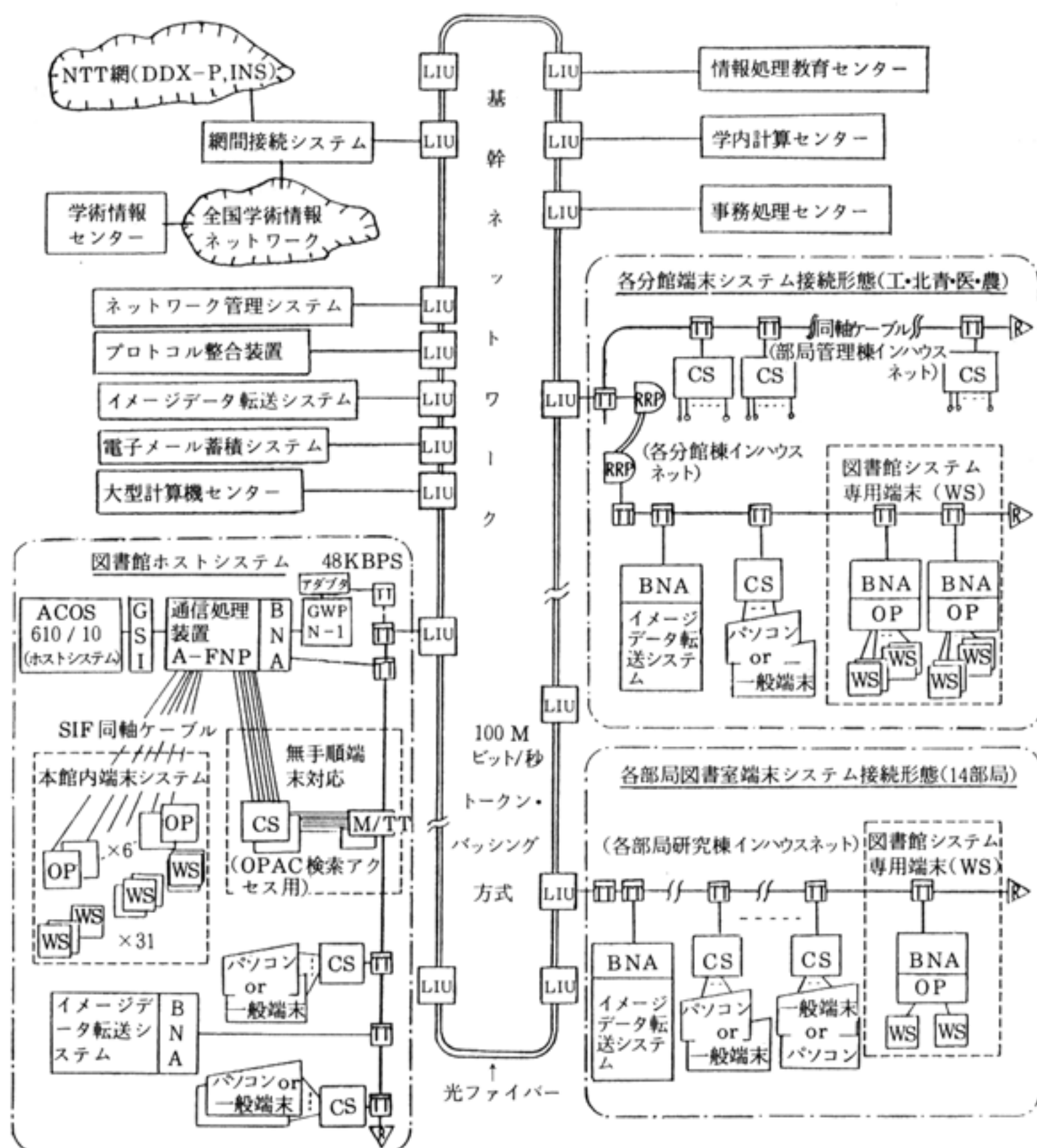
さて、以上のように東北大学では、研究・教育の情報処理環境の基盤整備であるキャンパス情報ネットワークシステムTAINSが一部運用し、数ヶ月後には完工して、全面的な運用開始が予定されている。このTAINS（学内LAN）の中で、東北大学図書館情報処理システムT-LINES（Tohoku

University Library Information Network System) がいかに対応・利用し、研究・教育の支援システムである T-LINES の諸機能を効果的に果たし得るかなど学内ネットワークシステムにおける図書館システムの位置づけについて簡単に触れてみる。図書館システムは、TAINS 構成のホストサービス機能のうち大型計算機センター、情報処理教育センターなどと情報処理サービス形態が異なるけれども、大学の研究・教育の強力な支援システムである。すなわち、本学では TAINS の基本構想及び実施計画段階から TAINS の中で T-LINES は欠くことのできないサーバホストシステムであると位置づけられてきたのである。そのために T-LINES は、TAINS の基本構想を考慮しつつ全学的支援を得、極めて短期間のシステム開発日程で、全国学術情報ネットワーク形成の一環としての学術情報センター間とのネットワークシステム構築及び本学図書館業務処理の全学的オンラインモードを基本としたシステムの構築を初期の目標通り完了し、全面的に稼働している。そこで、図書館システムが効率的に TAINS へ対応・結合させるための具体的なインプリメンテーションとして現在、次のような通信系の変更・切り換え、システムの拡充・開発などの作業を業務処理運転の合い間を利用し本年9月中の完了を目指して鋭意努力しているところである。

- (1). 図書館システムが現在使っているネットワーク通信回線路 (NTT, 構内専用) からデータ通信の高速化とデータ通信費の経済化を図るために TAINS の大容量高速通信網へ直接接続 (ISO 基準 IEEE 802.3 CSMA/CD 方式, イーサネット型直結) するための切り換え。
- (2). ホストコンピュータの処理効率 (負荷の軽減化) の向上及びデータ通信速度の向上を図るために(2)の実現により、現在の通信伝送制御手順 BASIC 手順から HDLC 手順 (ハイレベルデータリンク制御手順, NEC では DINA フェーズⅡ) に変更・切り換え・拡充する。
- (3). OPAC (Online Public Access Catalog: 利用者のためのオンライン目録) の実現。つまり図書館システムの「図書・雑誌の目録所在データベース (蔵書目録)」を TAINS を介して学内の何処からでも利用者が持つ一般簡易型無手順端末、パソコンなどから自由に検索アクセスができるように通信ソフト・一般ユーザ専用検索システムの開発及び改良を行なう。
- (4). TAINS の特徴の一つである高品位イメージデータ送配信システムを効果的に使用し、特に学内 (本館・四分館間) における文献複写サービス業務処理の効率化/拡充化を行なう。

以上の TAINS へのネットワーク接続形態を次ページに図示した。TAINS への直結化のために導入した主な機器 (含ソフト) はホストシステム系では通信処理装置 (A-FNP, ATAM), イーサネット接続機構 (BNA) であり、端末系ではタプトランシーバ、イーサネット接続機構などである。これらの作業は7月下旬～9月までに完了し、10月～来年の3月までテスト・試行・改良を行ない64年4月から全面的に開放・稼働させる予定である。このように TAINS と効率的に結合することにより T-LINES 全体の向上はもとより特に、一般利用者が図書館専用端末以外の研究者既有的簡易型端末、パソコンなどからも自由に蔵書目録データベースの検索が可能となり利用者の距離的格差も解消される。さらに、将来その他の図書館サービス機能の拡充をも技術的には容易に実現可能となるであろう。

今後、全学及び学外からの更なる御批判、御指導、御協力をお願い致します。



【注】 LIU：ノード制御装置

RRP：リモートリピータ

M/TT：マルチタップトランシーバ

TT：タップトランシーバ

CS：LAN整合装置

BNA：イーサネット型接続機構 R：ターミネータ

GSI：ホスト接続機構

GWP：ゲートウェイプロセッサ (N-1 ネット)

OP：オフィスプロセッサ (WSコントローラ)

WS：図書館専用端末 (ワークステーション)

TAINS (学内 LAN) 対応による図書館システムのネットワーク接続概念図

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

学術情報センター目録システム地域講習会

7月11日（月）～15日（金）までの5日間、当館を会場に標記講習会が行われた。本講習会は、従来学術情報センターで行われて来た「目録講習会」（3日課程）を各地域においても行うもので、「学術情報システムにおける目録所在情報サービスの一層の促進と、大学図書館の現場における目録業務担当者の教育訓練の機会の拡大を図る」ことを目的としたものである。

東北地区の場合、地区内の国立大学附属図書館全館が学術情報システム参加館になる日も近い、という現況を学術情報センターが重視され、本地区からの要請に応じて開催に漕ぎつけられたもので、学術情報センターの御配慮に感謝申し上げなければならない。

受講者は、弘前大2、秋田大3、岩手大2、山形大3、宮教大1、福島大1、東北大3の計15名で、全員目録又は参考業務の現担当者である。第1日目は学術情報センター講師（宮澤助教授、熊潤事務官）による「目録システム概論」と「目録

情報の基準」の講義があり、第2日以降は当館の講師5名による講義と目録データ登録の実習が定刻を過ぎるまで熱心に行われた。業務繁忙期にも拘らず和漢書・洋書両目録掛及び研修用の合計15台の端末機が本講習のために提供されるなど、当館全職員の協力なしには本講習は成立しなかったといつてよい。

講習終了後行った受講者へのアンケートによれば、「実務に則した内容で理解し易かった」との評が多く、学情センターのカリキュラム以外に、データ修正や学内システム取込み手順などを含めるなど、当館講師陣による綿密な事前準備が功を奏したかのようで、より実務的な即戦力の養成に貢献したものと思われる。

本講習の受講者は地区内大学のため顔見知りも多く、仲間同志の心安い雰囲気の中で気軽に質問がなされたようで、地区内での開催が効果的であった面も大きく、次年度以降も引続き東北地域講習会の開催が望まれるところである。

第35回 国立大学図書館協議会総会

標記総会が去る6月23、24日の両日、当番地区近畿地区協議会、当番館神戸大学附属図書館により、明治のゴシック様式の香りを残す兵庫県公館で開催された。

総会には95国立大学及び放送大学の附属図書館長以下、事務（部・課）長等約230名が参加、文部省からは緒方学術情報課長、安達調査官、船戸大学図書館係長が列席した。

黒田会長（東大館長）の開会の挨拶に始まり、一般経過報告の後、協議に入り本年度の事業計画

として、①学術情報システム特別委員会は継続し、「目録情報ネットワークの展開と大学図書館のシステム化」（ネットワーク専門委員会第2次報告書）に引き続き調査研究を行う。②外国出版物購入価格問題調査研究班は継続し、第1次報告書に引き続き、今年度も調査研究を行う。③大学図書館における文献複写の範囲に関するガイドラインを策定する目的で新たに「文献複写に係わる著作権問題特別委員会」を設置する。④学情システム特別委員会ネットワーク専門委員会の報告

とその趣旨を周知させ、それらの内容について各館の意見を吸収する目的で昨年に引き続き「シンポジウム」を本協議会と当該地区協議会の共催により二地区で開催することになった。

研究集会では「学内LANと図書館の位置づけについて」をテーマに文部省の安達調査官の基調説明の後、木本京大情報管理課長、石垣東北大図書館調査研究員、繰田熊本大情報管理課長による

それぞれの大学の事例報告があり、種々討論された。

翌日行なわれた二つの分科会と全体会議では活発な意見交換が行なわれ、これらの結果を踏まえて ①学術情報ネットワークの整備促進 ②学術図書・雑誌購入費の増額 ③図書館施設の整備拡充の三点を柱として取りまとめた要望書を、文部省並びに関係省庁に提出することになった。

第59回日本医学図書館協会総会

標記総会が去る5月19日(木)、20日(金)の2日間の日程で当番館大阪歯科大学図書館により、大阪のホテルプラザを会場として加盟館102館から館長・主任司書等230数名の参加があり盛大に開催された。

総会には、文部省から来賓として列席された西尾学術情報課長から御挨拶があり、特に学術情報システム関連として学術情報センターとの接続状況、米国のNSF(米国国立科学財団: National Science Fundtion)との国際接続、医学症例データベース(医学関係4学会と共同で作成する症例データベース)の構築等についての紹介があった。

総会の日程は、第1日目「司書会議」、第2日目「総会」で開催された。その総会の概略について紹介する。

第1日「司書会議」

司書会議での協議題は、①日本と中国(中国科学院医学研究所)との医学系資料の交換協力について、②新しい協会入会基準について、③今後の総会の在り方について、④協会の基本理念について、といった重要な議題の審議と各地区の活動状

況報告等があり活発な質疑応答が交わされた。

また、今年度の協会奨励賞を受賞された角田玲子氏(愛知医科大学医学情報センター)の「愛知医学大学附属図書館における機械化目録のための分ち書き」についての研究発表があった。

第2日「総会」

総会においては、新任館長、新任主任司書、名誉顧問、永年勤続表彰者の紹介があり、協会賞、奨励賞の授与に続いて議題審議に入った。①昭和62年度事業報告・決算報告、②昭和63年度事業計画・予算等について審議をし承認された。

また、「浜松医科大学附属図書館」からの協会入会加盟申請については、入会加盟調査委員会から入会加盟に関する実地調査報告の紹介があり審議の結果加盟が承認された。

総会期間中には、三輪真木子氏(エポックサーチ社長)の「情報化時代に求められるライブラリマン像」と岡田節人氏(岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所長)の「改めて日本の科学を考える」についての講演があり、次期当番館(日本大学歯学部図書館)を決め総会を終了した。

(医学分館)

昭和62年度下半期文献複写実績

国立大学等図書館間で取扱われた文献複写の本学に於ける昭和62年度下半期（9月～3月）分実績は下記のとおりです。

図 書 館 名	支払区分	受 付		依 頼	
		件 数	金 額(円)	件 数	金 額(円)
附 属 図 書 館	校 費	385	422,240	108	298,473
	私 費	132	111,960	187	144,635
	合 計	517	534,200	295	443,108
医 学 分 館	校 費	1,476	629,466	295	112,615
	私 費	670	296,445	109	43,360
	合 計	2,146	925,911	404	155,675
工 学 分 館	校 費	465	167,860	184	87,160
	私 費	26	8,445	2	1,060
	合 計	491	176,305	186	88,220
農 学 分 館	校 費	341	122,490	38	15,170
	私 費	79	57,070	90	38,775
	合 計	420	179,560	128	53,945
北 青 葉 山 分 館	校 費	582	461,435	85	61,105
	私 費	93	50,465	77	35,535
	合 計	675	511,900	162	96,640
理学部附属臨海実験所	校 費	9	5,000	0	0
	私 費	1	300	0	0
	合 計	10	5,300	0	0
合 計	校 費	3,258	1,808,491	710	574,523
	私 費	1,001	524,685	465	263,365
	合 計	4,259	2,333,176	1,175	837,888

昭和62年度下半期（9月～3月）分文献複写受付および依頼国立大学等図書館別実績は下記のとおりです。

図 書 館 名	受 付			図 書 館 名	依 頼		
	支払区分	件数	金 額(円)		支払区分	件数	金 額(円)
弘 大 図	校 費	49	27,270	北 大 図	校 費	1	665
	私 費	22	8,860		私 費	8	6,705
	合 計	71	36,130		合 計	9	7,370
岩 大 図	校 費	61	45,850	筑 波 大 図	校 費	2	780
	私 費	2	1,400		私 費	20	8,245
	合 計	63	47,250		合 計	22	9,025
秋 大 図	校 費	13	9,285	東 大 図	校 費	9	35,293
	私 費	0	0		私 費	23	22,920
	合 計	13	9,285		合 計	32	58,213
筑 波 大 図	校 費	3	2,370	東大教養学部	校 費	0	0
	私 費	12	7,130		私 費	9	6,020
	合 計	15	9,500		合 計	9	6,020
一 橋 大 図	校 費	25	4,825	東 京 工 大 図	校 費	28	8,170
	私 費	0	0		私 費	2	1,230
	合 計	25	4,825		合 計	30	9,400
新 潟 大 図	校 費	8	19,065	お茶の水女子大図	校 費	1	8,080
	私 費	2	965		私 費	13	5,010
	合 計	10	20,030		合 計	14	13,090
愛知教育大図	校 費	11	16,055	一 橋 大 図	校 費	1	525
	私 費	0	0		私 費	16	15,675
	合 計	11	16,055		合 計	17	16,200
神戸大人文社会	校 費	0	0	京 大 図	校 費	16	153,930
	私 費	15	9,545		私 費	4	3,750
	合 計	15	9,545		合 計	20	157,680
九 大 図	校 費	1	710	阪 大 図	校 費	4	15,590
	私 費	10	11,035		私 費	5	38,185
	合 計	11	11,735		合 計	9	58,775
長 崎 大 図	校 費	26	5,825	九 大 医 学 部	校 費	13	28,860
	私 費	0	0		私 費	6	0
	合 計	26	5,825		合 計	13	28,860
そ の 他	校 費	188	290,985	そ の 他	校 費	33	46,580
	私 費	69	73,025		私 費	87	36,895
	合 計	257	364,010		合 計	120	83,475

（本館で受付および依頼件数の多い上位の国立大学図書館を掲げた。）

昭和62年度図書受入冊数調

(単位：冊)

種 別 部 局 等	購 入 図 書			受 贈・そ の 他*			計		合 計
	和漢書	洋 書	計	和漢書	洋 書	計	和漢書	洋 書	
図 書 館	7,557	11,384	18,941	2,066	305	2,371	9,623	11,689	21,312
文 学 部	9,905	3,109	13,014	355	514	869	10,260	3,623	13,883
教 育 学 部	970	1,114	2,084	149	1	150	1,119	1,115	2,234
法 学 部	1,771	2,563	4,334	406	111	517	2,177	2,674	4,851
経 済 学 部	2,251	2,458	4,709	720	926	1,646	2,971	3,384	6,355
教 養 部	4,353	3,816	8,169	112	852	964	4,465	4,668	9,133
情 教 セ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
川 渡 農 場	22	16	38	0	0	0	22	16	38
学 生 部	6	0	6	0	0	0	6	0	6
大 計 セ	43	8	51	0	0	0	43	8	51
応 情 研	3	19	22	0	0	0	3	19	22
サ イ ク ロ	51	33	84	4	181	185	55	214	269
小 計	26,932	24,520	51,452	3,812	2,890	6,702	30,744	27,410	58,154
農 研	334	59	393	65	211	276	399	270	669
選 研	72	135	207	153	334	487	225	469	694
科 研	30	77	107	33	299	332	63	376	439
速 研	188	332	520	7	9	16	195	361	536
通 研	228	689	917	39	9	48	267	698	965
非 水 研	155	650	805	21	19	40	176	669	845
金 研	105	306	411	127	667	794	232	973	1,205
小 計	1,112	2,248	3,360	445	1,548	1,993	1,557	3,796	5,353
医 学 分 館	2,406	4,297	6,703	1,243	882	2,125	2,649	5,179	8,828
北 青 葉 山 分 館	985	1,165	2,150	473	4,300	4,773	1,458	5,465	6,923
工 学 分 館	2,340	1,418	3,758	378	2,372	2,750	2,718	3,790	6,508
農 学 分 館	817	366	1,183	244	1,241	1,485	1,061	1,607	2,668
小 計	6,548	7,246	13,794	2,338	8,795	11,133	8,886	16,041	24,927
合 計	34,592	34,014	68,606	6,595	13,233	19,828	41,187	47,247	88,434

*その他：雑件受入、管理換を含む。

○記念資料室利用規則の制定について

記念資料室に所蔵される諸資料の秩序ある利用を図るため、この度、標記の規則が、記念資料室運営委員会（委員長：石田名香雄学長）及び同専門委員会（委員長：塚本哲人室長）での審議を経て制定されました。今後、記念資料室を利用する場合、同規則に従うこととなりますので、お知らせします。

東北大学記念資料室利用規則

（趣 旨）

第1条 この規則は、東北大学記念資料室（以下「記念資料室」という。）が所蔵する資料の利用について、必要な事項を定めることを目的とする。

（記念資料室の業務）

第2条 記念資料室は、資料の利用に関し、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 閲覧に関すること
- 二 展示に関すること
- 三 参考調査に関すること
- 四 貸出に関すること
- 五 その他、東北大学記念資料室長（以下「室長」という。）が必要と認めた業務

（資料の公開）

第3条 記念資料室が所蔵する資料は、原則として公開するものとする。但し、室長は、寄贈又は寄託に係る資料であって、一定の期間公開しない旨の条件が付されているもの及び個人の秘密保持等の理由により一定の期間公開することが不適当な資料については利用を制限することができる。

（開室日）

第4条 記念資料室は、次の各号に掲げる日を除き、毎日開室する。

- 一 日曜日
- 二 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第3条に規定する休日
- 三 年末年始（12月28日から翌1月4日まで）

2 室長は、前項の規定にかかわらず、特に必要がある場合は、臨時に開室又は閉室することができる。この場合、室長は事前にその旨を掲示するものとする。

（開室時間）

第5条 記念資料室の開室時間は、次のとおりとする。

- 一 平日 午前10時から午後4時まで
- 二 土曜日 午前9時30分から午後零時まで

2 室長は前項の規定にかかわらず、特に必要がある場合は、臨時に開室時間を変更することが

できる。この場合、室長は事前にその旨を掲示するものとする。

（閲覧者の範囲）

第6条 資料を閲覧できる者は、次の各号に掲げる者とする。

- 一 東北大学（以下「本学」という。）の教職員、名誉教授及び元教職員
- 二 本学の卒業生
- 三 本学の学生（研究生、聴講生を含む。）
- 四 旧制第二高等学校、旧制仙台工業専門学校、旧制宮城県女子専門学校、旧制宮城師範学校及び旧制宮城青年師範学校の元教職員及び卒業生
- 五 学術に関する調査・研究を行う者で、所属機関の長又は図書館長の紹介がある者
- 六 室長が特に許可した者

（閲覧の手続）

第7条 資料の閲覧を希望する者は、記念資料室の職員（以下「室員」という。）に身分証明書又は紹介状を提示し、閲覧申込書に所定の事項を記入するものとする。

（閲覧の場所）

第8条 資料の閲覧は、記念資料室内の所定の場所で行うものとする。

（返 納）

第9条 資料の返納は、必ず室員の確認を得て行うものとする。

（展 示）

第10条 資料公開閲覧室に資料を展示し、一般の観覧に供するものとする。

（参考調査）

第11条 記念資料室は、次の各号に掲げる参考調査を行う。

- 一 資料の検索
- 二 特定の事項に関する調査又は参考文献の紹介
- 三 その他、室長が適当と認めたこと

（貸 出）

第12条 学術研究、社会教育等の公共的目的をもつ展示会等に出品するため、資料の貸出の依頼があり、室長が、必要と認めた場合は、貸出を行うことができる。

（弁償の責任）

第13条 記念資料室の利用者は、利用に係る資料を損失した場合には、相当の代価を弁償するものとする。

（補 則）

第14条 この規則に定めるもののほか、記念資料室の利用について必要な事項は、別に定める。

附 則

- 一 この規則は、昭和63年3月14日から施行する。

会 議 等

○昭和63年度東北大学附属図書館総合研修会

日 時 10月19日 13:00～17:00

場 所 東北大学附属図書館

○第21回国立七大学附属図書館部課長会議

日 時 10月20日 13:00～17:00

場 所 艮陵会館（仙台市広瀬町3-34）

○第62次国立七大学附属図書館協議会

日 時 10月21日 9:30～15:00

場 所 艮陵会館

人 事 異 動

S. 63. 6. 1 現在

発令年月日	旧 官 職	氏 名	新 官 職	備 考
63. 6. 1	情報サービス課事務補佐員	土 屋 鈴 子	医学分館事務補佐員	配 置 換
"		斎 藤 房 江	情報サービス課事務補佐員	採 用

編 集 後 記

暑い夏の日差しも衰え、蜩の声が何処となく物悲しく響きわたり、秋の気配が感じられる季節になりました。図書館も夏の期間は学生の休みで一段落と思いきや、休みでなければ出来ない仕事が増え、端末の動きと同時に一日の活動が始まります。他館より来訪の利用者への対応、見学者への案内、書誌情報の検索、職員の研修会・講習会の開催等、加えて書庫内及び開架閲覧室の書架配架整備点検作業、製本洋雑誌データベース構築作業の実施等、日常業務はもとより終日研鑽に励

んでおります。図書館の仕事は一日足りとも停滞することなく大河の流れの如く毎日が前進あるのみです。職員の皆さん本当にご苦勞様です。利用者あつての図書館です。

弛まず努力を重ね、利用者からの信頼をさらに高くすることが大事だと思います。温かい気持ちで接し、喜んで資料を提供できること、また落ち着いた静かな雰囲気勉強ができる場所を提供し、明るく活動的な働きがいのある図書館作りを目指して頑張ろうではありませんか。

東北大学附属図書館報「木遣子」 第13巻 第2号（通巻第50号）発行日 昭和63年8月31日

編集委員長 中島 甫 編集委員 佐藤博子、菅沢栄治、佐藤定夫、佐藤博光

発行人 相良侯秀 発行所 東北大学附属図書館 仙台市川内 電話 代表 222-1800 (2403)